

ESMILA
ESPON MIESLAULAJAT



日本・フィンランド修交100周年記念

エスミラ

男声合唱団「ESMILA」札幌公演

2019年5月25日(土) 19:00 開演
(18:15 開場)

札幌コンサートホール Kitara 大ホール
S ¥2,000 A ¥1,500 B ¥1,000 (全席指定)



プログラム

*プログラムは変更になる場合があります。

〈合唱曲〉

ジャン・シベリウス
『カレフラとカンテレタルから』
・舟を漕ぎ出すヴァイナモイネン
・失われた声

レーヴィ・マデトヤ
・深き淵より 他

〈オルガン曲〉
オスカル・メリカント
・幻想曲とコラール「スオミの悲しみ」

ヨン・グランルンド
・パッサカリヤ 他

〈合唱・オルガン〉
ジャン・シベリウス
・フィンランディア 他

指揮者
ヘルゲ・クルヴィッツ
(Helge Körvits)

オルガン奏者
ヴィッレ・ウルポネン
(Ville Urponen)

■主催：北海道フィンランド協会、在札幌フィンランド国名誉領事館 共催：北海道文化基金(申請中)

●協賛：北洋銀行、アークス、北海道青少年科学文化財団 ●後援：駐日フィンランド国大使館、北海道、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会、北海道国際交流協力総合センター、札幌国際プラザ、札幌合唱連盟、北海道新聞社、北海道放送、北海道高等学校文化連盟、札幌西北ロータリークラブ(他)

■ご予約・お問合せ／北海道フィンランド協会 10:00~17:00 (水・土・日・祭日を除く)

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目パークビル4F TEL 011-788-2011 FAX 011-788-2211 mail:hokkaido-suomi@leaf.ocn.ne.jp

●チケットは、道新プレイガイド(中央区大通り西3丁目)、大丸プレイガイド(中央区南1条西3丁目)でも扱っています。(3月20日から発売)



《スオミの歌》という合唱曲がある。

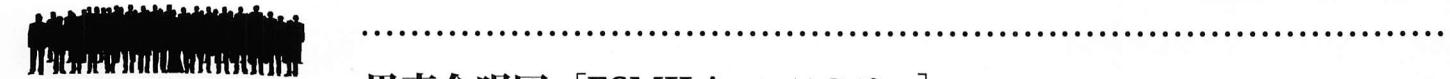
「歌い奏する琴の音 聴けよや！ 奇しき歌」という歌詞で始まり、わが国でも古くから親しまれてきた。ところで、「スオミ」がフィンランドのオリジナル名であることをどのくらいの人が知っているだろう。ましてや「琴」は指で弦をはじく民族楽器「カンテレ」を指していると知る人はごくわずかだろう。

フィンランドは知る人ぞ知る合唱大国である。少年少女合唱では、歌と器楽演奏の両方に秀で、世界を巡って各地で絶賛された「タピオラ合唱団」。男声合唱では、重厚かつ輝かしい響きを誇る「ヘルシンキ大学男声合唱団」、混声合唱では、透明感あふれる響きで聴く人を魅了する「カンドミノ合唱団」など、枚挙にいとまがない。

フィンランド音楽の魅力の源泉は、それぞれの地方で歌い継がれてきた民謡にある。長い間ロシアやスウェーデンの支配下に置かれ、豊かとはいえない国土を耕し、冬の厳しい寒さに耐えながら、祖先からの歌を歌い継いできた。その歴史遺産を芸術音楽に昇華させたのが、ヤーネフェルト、シベリウス、メリカント、クーラなどの作曲家たちである。かれらの作品をとおして世界の人々はフィンランドの芸術性の高さを知り、フィンランド人もまた自らが誇り高い国民であることを自覚したのである。

2019年はフィンランドとわが国とが修好条約を結んで100年目にあたる。記念すべきこの年に男声合唱団 ESMILA を聴けることを、この上なく幸せに思う。

(指揮者 中村隆夫)



ESMILA
ESPOON MIESLAULAJAT

男声合唱団 [ESMILA～エスマラ～]

首都ヘルシンキ市に隣接するエスポー市を本拠地とする1979年創立の男声合唱団で、今年創立

40周年を迎えた。フィンランドはバルト三国とともに合唱レベルの高い国で、ESMILA もその一つである。ほぼ2年ごとに海外へ演奏旅行を行っているが、2009年には韓国を訪問して同国で最も歴史が古く、最高レベルにあるとされる「韓国男声合唱団」とジョイントコンサートを行った。またこれまでに2011年コーンウォール（英国）、2013年マルタ共和国、2015年リーヴァ・デル・ガルダ（イタリア）で開催された国際合唱コンクールに参加し、それぞれ第3位、第2位、第1位を獲得している。

日本＝フィンランド修交100年にあたる2019年を前に、ESMILAは文化使節として日本公演を企画し、1976年創立以来、フィンランドと長年にわたって活発な交流を進めてきた北海道フィンランド協会に公演の主催協力を要請してきた。当協会ではそれに応え、在札幌フィンランド名誉領事館（横山清 名誉領事）と共に、駐日フィンランド大使館、北海道、札幌市などの後援を受けて、札幌コンサートホール（大ホール）と函館芸術ホールでの2公演を決定した。

なお北海道フィンランド協会では、この公演を北海道や札幌市の合唱愛好家、とりわけ若い世代の合唱愛好家を視野に入れて安価な入場料を設定し、多くの人が北欧の合唱に触れ得ることをもって両国の修交100年を記念することを強く願っている。

■ ヘルゲ・クルヴィツ（Helge Kõrvits、指揮者）

1993年、エストニア音楽・舞台芸術学院卒業。引き続きシベリウス音楽院でマッティ・ヒュエッキ教授のもとで合唱およびオーケストラ指揮を修める。1998年、合唱指揮のディプロマ取得。以来、Savolaisen Osakunnan Laulajat 合唱団（1992-1998）を皮切りに数々の合唱団の指揮者を務め、現在も複数の合唱団の指揮者を務めている。

■ ヴィッレ・ウルポネン（Ville Urponen、オルガニスト）

現代フィンランドを代表するオルガニストの一人で、その活動は世界に及んでおり日本へも演奏旅行を行っている。“American Organist”誌2016年1月号には「ウルポネンは極上の芸術性と華麗なテクニックを備えており、西側ヨーロッパおよびアメリカの最高のオルガニストの一人に数えられる」と評されている。

(北海道フィンランド協会)

ロビー演奏のお知らせ



開演前の18:30から大ホール1階ホワイエで、カンテレ（フィンランド民族楽器）と声楽アンサンブルによる演奏を行います（約10分）。出演は、カンテレあんさんぶる“みゅう”的皆さんと ESMILA の選抜メンバー。開演前のひととき、「森と湖の国」フィンランドの伝統楽器の神秘的な澄んだ音色をお楽しみください。

<チケットについて>

1. 座席の種類は、S、A、B 席があり、全て指定席です。指定の座席にてご鑑賞ください。
2. 公演中止の場合を除き、ご購入頂いたチケットのキャンセル、変更是出来ません。
3. 未就学児の同伴はご遠慮下さい。なお、就学児童のご入場には1人1枚チケットが必要です。

*場内での写真撮影や録音、携帯電話の使用などはご遠慮ください。